

## 会議結果報告書

1. 会議名 令和2年度 第1回 印西市環境推進市民会議
2. 日時 令和2年6月19日(金) 9:30~11:30
3. 場所 附属棟25会議室
4. 出席委員: 岩井会長、白川委員、小山委員、橋本委員、平林委員、福井委員  
事務局: 黒田、清田(環境保全課)
5. 傍聴者 0名
6. 配布資料
  - ・令和2年度 印西市環境推進市民会議開催スケジュール(案)
  - ・第3次印西市環境基本計画の策定について
  - ・環境意識調査の実施について
  - ・アンケート調査票(案)(市民・事業者)
  - ・印西市環境基本計画(案)作成に対する提案(意見)<案>
7. 内容
  - (1) 開会
  - (2) 会長挨拶
  - (3) 議題
    - ①令和2年度のスケジュール(案)について  
事務局:(令和2年度のスケジュール(案)の説明)  
会長:令和2年度のスケジュール(案)について、ご質問・ご意見ある方はお願いします。  
市民アカデミーは通常通りやっているのか。  
委員:聞いた話では1年間活動中止となっている。  
委員:活動すべき市民向けのものが今回は2つなくなっている。この機会に、来年度市民向けに何をするか検討しても良いのではないかと。  
会長:それは良い意見である。我々の任期は今年度いっぱいであるが、来年度に何をするかということ、これから始める環境基本計画への提案が終わる今年度の後半に検討することとする。  
委員:市民の方々へ環境への関心を持ってもらうには、環境フェスタなどの形式で人を集めなくてもできると思う。  
委員:市民に向けた広報活動などはどうか。  
会長:様子を見て検討する。
    - ②第3次環境基本計画策定スケジュールについて  
会長:千葉県環境基本計画が今年3月に新計画へと改訂された。印西市は千葉県の方針に影響される立場にあるため、その内容を把握する必要がある。もしかすると、計画についている予算で印西市でも新しいことが出来るかもしれない。

事務局：それに基づき様々な事業をすることではないと思われる。

委員：10 ページ程度の計画の概要版があればいい。

事務局：概要版については確認する。

事務局：(第3次環境基本計画策定スケジュールの説明)

委員：事業者会議の話が良く理解できなかった。

事務局：推進会議の中に「市民会議」と「事業者会議」があり、これまでは事業者が集めにくかったため、事業者会議は設置していなかった。今回は環境基本計画の策定会議になるため、だった事業者に参加を要請し、事業者会議を設置予定である。定員は5名以内であり、最低でも3事業者を招集する。

委員：事業者会議が設置された場合、市民会議と合同での開催になるのか。

事務局：環境基本計画の話をする際には、市民会議と事業者会議を合同で行う予定である。

会長：どのような企業を招集予定か。

事務局：前回の計画策定時は市内の事業者が主だったが、今回は規模が大きい企業や商工会を想定している。

委員：イスズトラックやグッドマンなどの大きな企業に参加頂きたい。

事務局：検討する。また今後、環境意識調査を実施予定であり、市民及び事業者における調査票を確認の上、ご意見を頂きたい。

会長：意見はどのように送れば良いか。

事務局：提出はメールでお願いします。頂いたご意見は事務局で検討の上、いくつかを調査票へ反映させて頂く。

委員：調査票6ページにある「緑と水辺を大切に作る」ための取組として、「生物の保全と適切な飼育」は人によってなぜ必要かわからない気がする。これは過去調査でもある設問か。

事務局：過去調査でも入っていた設問である。

委員：環境に「崖」などは入らないのか。印西市は崖が多く、我が家でも崖崩れの被害にあっている。3ページにある「市内の環境に満足しているか」という設問では、選択肢に崖が含まれていない。

会長：崖崩れなどの災害関係は入っていないのではないか。

委員：「グリーンインフラ」という言葉を考えると、災害と自然環境は密接に関係している。崖も自然環境と絡めてうまく取り入れられればいい。

事務局：崖崩れとしては防災の話になってしまうため、うまく環境と絡ませれば調査票にも入れられると思う。

委員：印西は谷津と自然環境が特徴であるため、それらを市民に意識づけできる意識調査となれば良いと思う。また、自然と防災のつながりが分かるようなアンケート項目があると面白い。

事務局：意識調査へのご意見は6月26日(金)までにメール等でお願ひしたい。頂いた

ご意見のうち、一部を調査票へ反映させて頂く。

委員：調査票 11 頁の間 15 選択肢 17 にある「台風などの自然災害によるインフラ・ライフラインへの影響」について、なぜインフラ・ライフラインだけなのか。こうしたアンケート調査には雛形があるのか。

事務局：今回のアンケート調査票は印西市で過去に行った調査を参考としている。また、その他の自治体で環境基本計画に関連して行われた調査を参考に、設問の追加も行っている。

委員：インフラを訊くならば崖崩れの対策に関して選択肢に入れても良いのではないのか。

委員：ライフラインということを広くとらえて、そこに崖崩れ等をふくめてはどうか。

委員：しかしライフラインは水道や電気である。選択肢 11 に「洪水や内水のリスク」があり、それがあれば、崖崩れの選択肢があっても良いのでは。防災に関することでも温暖化に関連するものは入れてもいいと思う。

会長：完全に防災は入れる必要がないということではなく、環境に影響するものであれば入ってくる。

### ③市民会議での検討事項について

委員：「基本計画策定に当たりとりいれるべき事項」に SDG s を挙げているが、すでに計画策定の方向性にも明記してあり、載せる必要はないかもしれない。

委員：「こういった意識である」として載せることは良いと思う。

委員：了解した。

委員：I について意見がある。環境基本計画は自然を大切にすることが一番大きな柱であり、印西市においては特に自然と都市機能である。農業と農業環境を守ることが印西市においてすべきことであり、里山環境を守るということを言いたい。

委員：それを I に入れるということか。

委員：言葉を「とりいれるべき事項」から「基本計画策定に当たって印西市における重点事項」にした上で、私としては 1 番に「里山の生物多様性の保全」、2 番に「計画へ SDG s の考え方を取り入れる」、次に「この 10 年間の次の大きな変化を捉える」としたい。特に環境基本計画の上位計画である総合計画から「自然」のワードが消えてしまっているので、環境基本計画では位置づけに力を入れてほしい。

会長：「この 10 年間の次の大きな変化を捉えること」の中の「原発問題」について、直接は印西市に関係ないのではないのか。また我々にはどうしようもない問題である。

委員：原発の対策事業はまだ環境保全課にあるのか。

事務局：環境保全課の方で担当しており、放射線の測定も行っている。

会長：放射線濃度は事故からの時間経過により都市部を含め下がってきており、項目からはなくしても良いと思う。

委員：その「原発問題」の代わりに、「開発企業の進出」等もあるが「農業の衰退によ

る農業環境の劣化」を入れてほしい。具体的には「谷津の荒廃」など。

会 長：ただしこれは条例や法律の話であり、法律が許可していれば開発は進んでしまう。ここで入れても、法律などとして規制しないことには難しい。

委 員：開発を許可するのは市や県なので、印西市の問題である。開発をやめろというわけではなく、「開発と農業人口の減少による農業環境の悪化」という事を事実として「この10年間の次の大きな変化」の中に入れてたい。また、「新型コロナウイルス問題」もウイルスを特定せず、「新たなウイルスの脅威」などにしたい。

委 員：次に基本計画の期間について、目標値については「5年毎に見直しをする」と言い切ろうと思う。5年に1回はするという意思表示及び提案をしたい。

会 長：これは大事である。国では、COPへ新しい計画を来年度には出すとしており、その改善された計画はこの環境基本計画にも影響してくる。そのため、5年という期間は長いかもしれないが見直しは必要である。

委 員：8年や9年前の数値を基準値と比べることはピントがずれているように感じる。個別課題の設定には、「農業環境をインフラと考える〈グリーンインフラ〉の発想を取り入れ」とした。また②には「ゴルフ場周辺の谷津保全」とした。

委 員：これは具体的な施策になるので、施策としては検討してほしいが、課題として環境基本計画に入れるのは微妙ではないか。

会 長：これは外すとす。

委 員：次に「自然ボランティア活動推進のためのポイント制導入」について、もし出来ればよいと思う。実際に運用するとなるとどうなるか、詳しい人がいれば。

委 員：PayPayで加算してもらうとかは難しい。ボランティア活動に行き行って押してもらえるのは精々ハンコである。

委 員：スタンプラリーなどでボランティアに紙を持って行ってもらい、ボランティアに1回行ったら100円、5回溜まったら1000円などにするのはどうか。

委 員：環境基本計画の中に入れなくとも、具体的にこんなのはどうかということで入れたらどうか。流石に「ポイント制導入」まで環境基本計画に書けないと思うが。

委 員：アバウトな対策より、出来る限り具体的な提案がしたい。次に「外来種対策」について。

委 員：今年はオオキンケイギクが大繁茂している。アメリカザリガニの横に「オオキンケイギクなど」として入れてほしい。

委 員：道路沿いに除草業者が入っており、オオキンケイギクも除去するのかもしれないが、実際は残されていた。綺麗だからと残した可能性があるため、業者へ指導する必要があると感じた。

委 員：オオキンケイギクの時期になったら、その都度、外来種であり除去する必要がある旨の注意を促してほしい。

委 員：では、アメリカザリガニの横に「オオキンケイギク等」を入れる。次に、「バス

やブルーギルのリリースを条例化する」について、これはイベント業者が放流しているケースもある。

委員：釣り人が放流しているケースもある。

委員：飼育中のペット放流の禁止では、放流だと魚だけという感じを受ける。

委員：メダカだったらいいかなと思われてしまうから、「放流」という言葉は入れた方が良い。「ペットを野外に放すことは止めましょう」という表現にしたい。

会長：「放出」はどうか。

委員：「放出」は何か違う気がする。

会長：良い案を考えていきたい。

委員：次に「生活環境」と「都市環境」とあるが、都市を中心に構成しているように感じる。農村環境などを含めて上手くまとめる言葉にできないか。

委員：「都市」というものをどう捉えるかではある。

会長：この「自然環境」等のくくりはすでに決まっているものなのか。

委員：くくりとしては決まっている。しかし、「農村環境」などはないのか。

事務局：資料「策定について」の4ページ目をご覧頂きたい。各環境の内容を示しており、これが目安である。農業などは自然環境に入る。

委員：資料の表現を見ると都市化することが良いという風に見え、気になっている。

事務局：これは過ごしやすい都市環境を作るという意味である。

会長：この表現の問題についてはまた考えるとする。次の生活環境におけるPM2.5の話について、これは印西市ではなく県で計測を行っているため、市がトレンドを把握するというのは難しい。

委員：ではこの項目はやめるか。

会長：ただ環境問題ではあるので、保留はどうか。

委員：PM2.5は大気の問題であるので、関連するものでまとめてはどうか。

会長：確かに新しい話題であるが、排出源を抑えることが出来ないため、非常に難しい問題である。

委員：海洋プラスチック問題について、プラスチック問題ではどうか。最終的には海洋ごみとなるが、印西市では分かりづらいのではないか。

会長：実際に大問題となっているため、「海洋」はやはり入れた方が良い。

委員：ごみ拾いをしていて、山にも川にも大量にプラスチックごみがあり、海だけの問題ではない。印旛沼にも沈んでいる。

委員：確かに印西市ではそうである。しかし、海洋の中にそれらの概念が含まれている。

委員：了解した。

委員：資料に自然環境や都市環境など4項目があるが、人づくりの項目はどうなったのか。

事務局：資料の表中にはないが、その上の文章に「人づくり」の項目を記載している。

委員：なぜ表の外に人づくりを出したのか。

事務局：資料の表現は現行計画での記載と同じである。

会長：人づくりの③はマイナーな話であり、いらぬのではないか。

委員：表現を変えて「文化伝統を伝える人の育成」などにしてはどうか。

会長：今の表現ではあまりにも具体的すぎると思う。

委員：地球環境について、印西市でも気候非常事態宣言を宣言してはどうかというご提案があったが、これはどうするか。

会長：これは今のところ入れておいてほしい。各都市でもコロナの影響で保留されているようだが、1年後に考えたい。

委員：次に「その他の課題」について、「その他」という表現も検討が必要である。(4)の調査項目追加が必要についてご意見は。

委員：谷津の消滅、草地の消失とあり、これまで環境白書では耕作放棄田の増減で評価していたが、地図に落としての調査はしているのか。

事務局：担当となる農政課の方でそのような地図を持っているかは把握してない。また、以前の産業課では毎年休耕田の調査として地図を見ながら現地の確認も行っていたが、地図としてまとめているかは把握していない。

委員：谷津がどうなっているか、実際に地図に落として見ていかないと、印西市の自然の変化というのは分からないと思う。予算の問題もあるが、主だった谷津だけでも状況を可視化することが大切ではないか。

会長：「谷津の消滅」など、この文章を活かした方が可視化してくれるのではないか。

委員：来月にはこの検討も最終としなくてはならない。

委員：不法投棄などは都市環境より農村環境に入る気がする。また防災などもどの項目になるかが難しい。

委員：また来月の会議で検討する。

会長：時間となったので本日の会議は終了とする。

事務局：次回の会議は7/17に農業委員会会議室で開催とする。

令和2年度 第1回 印西市環境推進市民会議の議事録は、事実と相違ないことを承認する。

令和2年7月17日

委員 福井 幸夫

委員 岩井 邦夫